

臨床薬学 1

責任者・コーディネーター	臨床薬学分野 富田 隆 准教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬学分野		
対象学年	4	区分・時間数	講義 15 時間
期間	前期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

実際に行われている薬剤業務全般についての基本的知識、技能、態度を修得、理解することで、時代が求める医療を実践できる薬剤師としての素養を身につけられる。特に臨床薬学1では、リスクマネージメント、医薬品情報管理と応用、服薬指導、薬学的管理と処方提案、TDM など、薬剤師の基本業務について理解を深めることで、薬剤師業務の目的と薬剤師の役割が理解できる。

・教育成果（アウトカム）

チーム医療や地域医療を実践できる薬剤師としての必要な基本的な知識、技能、態度について説明できる。薬剤師が行っている業務（リスクマネージメント、医薬品情報管理、服薬指導、薬学的管理と処方提案、TDM など）について理解を深めることで、薬剤師業務の目的と意義が説明できる。
(ディプロマ・ポリシー：1, 2, 4, 5, 6, 8, 9)

・到達目標（SBO）

1. リスクマネージメントや副作用の初期症状について説明できる。
2. 製剤業務について、院内製剤や薬局製剤について例をあげて説明できる。
3. 医薬品管理業務や医薬品の採用について概説できる。
4. 特別な管理が必要な医薬品の取り扱いを説明し、列挙できる。
5. 医薬品情報業務を概説し、医薬品情報の取り扱いについて説明できる。
6. 疑義照会の意義と必要な情報を列挙できる。
7. 服薬指導業務の目的、方法、必要な知識等について概説できる。
8. 服薬指導業務における服薬指導記録の必要記載事項について説明できる。
9. 薬学的管理と処方提案の意義について説明できる。
10. 血中薬物濃度モニタリング業務（TDM）について実際例をあげて説明できる。
11. TDM の薬物投与計画への応用について例をあげて説明できる。

・講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/16	月	2	臨床薬学分野	工藤 賢三 教授	薬剤師の業務、リスクマネージメント、副作用対策： 1. 薬剤師の業務変遷とその社会的背景について説明できる。

					<p>2. 医薬品に関連したリスクマネジメントについて説明できる。</p> <p>3. 代表的な副作用について説明できる。</p>
4/16	月	3	臨床薬剤学分野	千葉 健史 助教	<p>製剤業務（薬局製剤、一般製剤、無菌製剤）</p> <p>1. 院内製剤と製薬企業の製造する市販製剤の違いを理解し、説明できる。</p> <p>2. 院内製剤のクラス分類、クラスに応じた管理方法を理解し、説明できる。</p> <p>3. 薬局製剤の法的位置づけ、製造～販売手順を理解し、説明できる。</p>
4/19	木	1	臨床薬剤学分野	富田 隆 准教授	<p>医薬品管理業務（薬局、病院）、医薬品の採用</p> <p>1. 在庫管理、品質管理、安全管理からなる医薬品管理業務を理解し、説明できる。</p> <p>2. 法規制や保存条件を遵守する意義を理解し、説明できる。</p> <p>3. 法的管理が義務付けられている医薬品について、名称、分類、管理・保管を理解し、説明できる。</p>
5/7	月	2	臨床薬剤学分野	富田 隆 准教授	<p>医薬品情報管理業務</p> <p>1. 医薬品情報に関する収集、検索、伝達などの実践技術を理解し、説明できる。</p> <p>2. 医薬品適正使用のための情報提供のあり方について理解し、説明できる。</p> <p>3. 医薬品の適正使用に必要な医薬品情報について正しく理解し、正しく取り扱うための、医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理に関する基本的知識が修得できる。</p>
5/14	月	2	臨床薬剤学分野	平船 寛彦 助教	<p>疑義照会の根拠（代表的な医薬品の用法・用量、効能・効果、警告・禁忌、相互作用）</p> <p>1. 疑義照会は薬剤師法第 24 条に基づいて行われていることを理解し、説明できる。</p> <p>2. 薬剤師が疑義照会を行うことにより処方意図の把握、医薬品適正使用および医療過誤防止につながることを理解し、説明できる。</p> <p>3. 代表的な医薬品の用法・用量、効</p>

					能・効果、警告・禁忌、相互作用について理解し、説明できる。 4. 疑義照会の対象となりやすい処方例を理解し、説明できる。
5/21	月	2	臨床薬剤学分野	平松 寛彦 助教	服薬指導業務（1）：服薬指導業務の概要、服薬指導に必要な情報と知識、患者情報の収集 1. 病院および保険薬局で行う服薬指導業務の目的、方法ならびに必要な知識について理解し、説明できる。 2. 服薬指導の手順、患者とのコミュニケーションにおける留意点、服薬指導実施に算定可能な加算について理解し、説明できる。 3. 初回面談業務や持参薬鑑別業務の重要性を理解し、説明できる。
5/31	木	1	臨床薬剤学分野	平松 寛彦 助教	服薬指導業務（2）：薬歴管理、指導記録、服薬指導の実際、特殊な患者への服薬指導 1. 薬歴、薬剤管理指導記録の記載方法について理解し、説明できる。 2. 薬学的視点によるプロブレムリストの立案方法や SOAP 形式による指導記録の記載方法について理解し、説明できる。 3. 特殊な患者への服薬指導について事例を理解し、説明できる。 4. 小児、高齢者および糖尿病患者に対する服薬指導時の留意点について理解し、説明できる。
6/4	月	2	臨床薬剤学分野	富田 隆 准教授	薬学的管理と処方提案 1. 厚労省医政局通知（0430 第 1 号）「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」を踏まえた、薬剤師の薬学的管理の実際について理解し、説明できる。 2. 処方提案として、腎機能に応じた投与量調節例を理解し、説明できる。 3. 処方提案として、投与方法の改善例（簡易懸濁法）の他、糖尿病薬、抗がん薬、リウマチ薬、喘息薬、免疫抑制薬などの薬学的管理のポイントを理解し、説明できる。 SOAP の基礎と例示
6/11	月	2	臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	血中薬物濃度モニタリング業務（TDM）（1）：TDM業務の実際

					<p>1. 薬物動態に関連するパラメーター（バイオアベイラビリティ、消失半減期、分布容積、クリアランス、尿中排泄率など）について理解し、説明できる。</p> <p>2. パラメーターの臨床的活用方法について説明できる</p>
6/18	月	2	臨床薬剤学分野	工藤 賢三 教授	<p>血中薬物濃度モニタリング業務（TDM）（2）：薬物投与計画への応用、中毒医療</p> <p>1. TDMが必要となる薬物の種類や特徴、その理由が説明できる。</p> <p>2. TDMが必要となる薬物のTDMのポイントが説明できる。</p> <p>3. 中毒原因薬剤と解毒薬について説明できる。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本 [知識・態度]（第3版）	上村 直樹、平井 みどり 監修	羊土社	2017
教	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 薬剤師業務の基本 [技能]（第3版）	上村 直樹、平井 みどり 監修	羊土社	2017
参	治療薬マニュアル 2018	高久 史磨、矢崎 義雄 監修	医学書院	2018

・成績評価方法

定期テスト（90%）と小テスト（10%）で評価を行う。また、小テストは形成的評価にも使用する。

・特記事項・その他

予習としては、予定されている授業内容を予め教科書や参考書で確認しておくこと。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題を確認し、まとめておくこと。
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。
定期テスト、小テストについては、講義中に解説する。
薬学部授業アンケート（評価点、自由記載欄等）の結果を授業に反映させる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-W9JWECDS）	1	スライド投影のため